

本サービスにおける著作権および一切の権利はアイティメディア株式会社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスの出力結果を無断で複写・複製・転載・転用・頒布等を行うことは、法律で認められた場合を除き禁じます。

「英語に愛されないエンジニア」のための新行動論 一番外編一：

若きエンジニアへのエール～入社後5年間を生き残る、戦略としての「誠実」～

<http://eetimes.jp/ee/articles/1207/26/news006.html>

「新卒から入社5年目ぐらいまでの新人、若手」という方は、たぶん社会人として最も辛く、厳しい時期にいる方だと思います。社会の矛盾、不合理、理不尽、不条理という名の弾丸が、複数の機関銃から一斉掃射される、悲惨な戦場にいるかのような、恐ろしく辛い時代です。その間の無防備な時代を凌ぐには、「戦略」が必要です。私は、新人、若手の皆さんに、「誠実」、「温厚」、「寄生」という3つの戦略を授けたいと思います。

2012年07月26日 10時30分 更新

[江端智一, EE Times Japan]

われわれエンジニアは、エンジニアである以上、どのような形であれ、いずれ国外に追い出される……。いかに立ち向かうか? →『[英語に愛されないエンジニア](#)』のための新行動論」連載一覧

編集担当の方から、「毎月の連載原稿とは別枠で、『若きエンジニアへのエール』を書いていただけないでしょうか?」という依頼を受けました。「対象読者は、新卒から入社5年目ぐらいまでの新人、若手です。江端さんのこれまでの経験や体験から、新人、若手のエンジニアがエレクトロニクス業界で生きていくに当たり、教えておきたいこと、伝えたいメッセージなどを、まとめていただけると大変嬉しく思います」との内容です。ただ、「どのような内容でも結構です。当方の覚悟はできております」というコメントが、少々気になったのですが、まあそれはさておき。

私は、メールを読んで15秒以内に、「引き受けます」との旨の連絡をしました。なぜ引き受ける気になったかと言いますと、非常に単純な理由です。「楽しい」からです。新人に説教をたれるというのは、年配にとっては「最高のエンタテインメント」であるからです。なんたって、社会というヒエラルヒーにおいて、新人や若手は社会人として弱い立場にあり、そのような自分より社会的に弱い立場にいる者に対して、上から目線で持論を一方向的に述べる ―― こんな愉快的イベントを、年配であるこの私が見逃すわけがない。

これが真実であることは、簡単に「裏」が取れます。ティーンエイジャー向けの悩み相談サイトなどでは、年配者たちのうんざりするほどの書き込みがあります。年配は若い人に説教したくしょうがないのです、本当に鬱陶(うっとう)しいくらいに。

先日、「男は顔が良くないと、やっぱり女の子にモテないでしょうか」という悩み相談に対して、「男は中身で勝負するのだ」、「内面を磨けば



写真はイメージです

モテる」とか言う年配者たちの回答が、ざつと20~30件もありました。この回答の多さには、たぶん質問者の方が驚いたでしょう。

私も、生まれて初めて相談サイトへの「書き込み」というのをやってみました。この男子の悩みをよく理解できましたから、誠実に回答しました。「その通りです。男は顔が良くないと女の子にモテません。なにしろ我が国には美しいモノ(物品の美的形態)を保護する法律(意匠法)までがあるくらいです」と書き込んでおきました。事実ですから。

さて、この「年配」というのは、日本の大半の企業においては「上司」という人間になります。そもそも、上司というのは、「上司である」という理由だけで、部下には「迷惑」な存在です。その程度の認識は、私でさえあるのですが、いろいろと聞き回ってみると、その程度の観念にすら至っていない年配者の、まあ、なんと多いことか。下手すると、「仕事に厳しいオレのことを、部下たちはひそかに尊敬している」とか「嫌われているように見えるが、実際のところ、オレは部下に人気がある」と思い込んでいたりします。本当に迷惑この上もありません。

そう思い込んでいる上司は幸せでしょうが、部下は不幸です。部下というのは、「部下である」という理由だけで不幸なのです。「ぶか」と入力したら「不幸」と漢字変換されるくらいです。まずこの事実を受け入れましょう。事実ですから。

さて、ここまでが、「エール yell:【自動】怒鳴る、がなる、わめく、鋭く叫ぶ、大声を上げる」の方のエールです。では、ここから「yell a cheer: 大声で声援する」の方のエールをお送り致します。

「新卒から入社5年目ぐらいまでの新人、若手」という方は、たぶん社会人として最も辛く、厳しい時期にいる方だと思います。社会の矛盾、不合理、理不尽、不条理という名の弾丸が、複数の機関銃から一斉掃射される、悲惨な戦場にいるかのような、恐ろしく辛い時代です。

5年後くらいには、機関銃の弾も打ち止めになるか、あるいは、あなた自身で防弾チョッキを調達できるようになるのですが、その間の無防備な時代を凌ぐという、「戦略」が必要となります。私は、「新卒から入社5年目ぐらいまでの新人、若手」の皆さんに、3つの戦略を授けたいと思います。

第1の戦略「誠実」

エンジニアにとって誠実であることは、極めて重要です。誠実であることは、お客様から信用をいただき、上司や同僚からの信頼を勝ち得て、自分の考える理想の設計を行い、優れた製品を作り出して、世の中の人に喜んでもらう――などということは全く関係がなく、そんなことはどうでもよいことです。

我々エンジニアにとって、誠実であるというこの意義は、「人として正しい行為」であるからで



写真はイメージです

はありません。エンジニアにとっての誠実という

のは、単なる「戦略」です。そこに、モラルとしての意義は必要ありません。「戦略としての誠実」には、メリットが3つあります。

(1) 安価

「誠実」はコストが低いです。「誠実」ではない設計やシステム構築は、ほぼ間違いなく不良製品を発生させ、膨大な損害が発生します。また、設計上のミスについて、不誠実に、嘘をつき通すことは、面倒な心理的負担を発生させるだけでなく、その嘘を、筋の通ったストーリーとして作り上げ、かつ維持する必要が生じて、矛盾のない論理付けや知識も必要で、リスクも大きいです。これに対して、「誠実」は最終的なコスト(TOC: Total Cost of Ownership)がとても安くすむのです

(2) 簡単

「誠実」はシンプルです。相手(お客様、上司、同僚、部下)に応じて対応を使い分けたり、製品開発の精度、そして開発規模やコストに応じて、複数のシナリオを準備する必要はなく、ただ、誰に向かうときにも、どのような対象に取り組むときにも、誠実であることだけを実施すれば足りません。要するに、「誠実」は簡単なのです。

(3) 付带的価値

「誠実」には、おまけ効果として、優れた人格、人望のある人間のごとく、人々に「誤解される」という非常に優れたメリットがあります。特に、独身の異性に対して「誤解される」ことは、最近の厳しい婚活戦線においてどれだけ有利に働くか、言うまでもありません。さらに「誠実」は、長期戦略に向いています。社会的な地位を求めている人であれば、「誠実」は出世にも資することにもなるでしょう。

加えて、この「誠実」という戦略は、まさに、新卒から入社5年目ぐらいまでの新人、若手にとって、重要な意味があります。この戦略は、後発的には取り得ないのです。「誠実」が「誠実」として受け入れられる期間が短いからです。「誠実そうな若い人」というフレーズは光輝いて見えます。一方、「誠実な中年」、「誠実なおばさん」というのは、ともすれば、「愚鈍、愚図、無能、暗愚」というネガティブなイメージが伴います。具体例を示しましょう。今、私がこの誠実戦略を開始したとしたら、多くの方は、それを間違いなく「江端が、何かの策略、陰謀、奸計(かんけい)を画策している」と捉えるだけでしょう。

まとめます。「誠実」とは、十分な経験がなく、まだトラブルに高速に対処する能力も兼ね備えておらず、能力も知識も乏しく、業務を理解できていない、浅学で、未熟で、稚拙な、そういう新卒から入社5年目ぐらいまでの新人や若手に適した「最適戦略」そのものなのです。

第2の戦略「温厚」

エンジニアにとって温厚であることは極めて重要です。こちら、「誠実」と同様、モラルとしての価値なんぞは、どうでもよいことです。ただし、「温厚」という戦略は、上司に対しては必要あり

ません。同僚または後輩、部下に対してこそ発揮する必要があります。

この理由のメインは、同僚や後輩が、あなたを追い抜いて出世するからです。新卒から入社5年目ぐらいまでの新人、若手の皆さんは、「先輩と後輩」というのは「指示」や「命令」の流れる方向を示すベクトル程度のものであると認識していると思います。これは無理のないことなのです。なぜなら、小学校から大学に至るまでの全期間において、このベクトルが逆転する機会はなかったからです。間違えても、公の場で先輩を呼び捨てにすることはなく、また先輩が後輩を「さん付け」で呼ぶことはなかったはずです。しかし、会社は違います。

あなたより優秀な後輩は、あなたの後に山ほど入社してきて、簡単にあなたの上司となります。優秀な人が出世するのは当然です。入社年度の古さなど、全く問題になりません。あなたが、学生時代の体育会のようなノリで、理不尽な命令をしていた後輩は、あなたの上司になった後、正当な命令指揮系統にのっとり、理にかなった命令を下します。その命令を受け取るあなたの気まずさは、半端ではありません。



写真はイメージです

私の場合、いわゆる「体育会系のノリ」(先輩に過剰なほど丁寧にあいさつするとか、後輩に対して使い走りをさせるとか)というのが、嘔吐(へど)が出るほど嫌いでした。私は、会社という組織の構成員を、「たまたま同じ組織に属した、赤の他人の集合体」と認識しており、過度に上司にこびることなく、また、不要に部下に威圧的になることはなく、淡々と社会人生活を過ごしてきました(そう思っているだけかもしれませんが)。このことは、私にとって非常に運が良かったことだと思っています。

新卒から入社5年目ぐらいまでの新人、若手の皆さんにとっては、この指揮命令のベクトル逆転現象は、まだよく見えないと思います。だからからこそ、今のうちに、私は声を大にして申し上げたいのです。長期的に会社に所属して生きていく予定があるなら、「上司なんぞはぞんざいに扱ってもよい。何よりも誰よりも、後輩を大切にせよ」と。

第3の戦略「寄生」

エンジニアにとって、安易に退職しないことは極めて重要です。その理由は、もちろん精神的な側面や経済的な要素もありますが、最も重要なことは、エンジニアの財産が「技術」であるからです。「人脈」でも「ノウハウ」でも「腹芸」でも「根回し」でもなく、「技術」という無体財産は、この「先の見えない時代」において、強力な武器になります。



写真はイメージです

私の姉は「あんたはいいわね。明日クビにな

っても、あさってには再就職できるんだから」と

言います。姉は昨今のエンジニアの再就職の状況を少々誤認していると思いますが、世間一般の「エンジニア」に対する1つの認識であると認められます。

しかし、問題は「安価な技術」は短い時間で取得可能であり、それゆえに価値が低いことです。我々が目指すのは「高価な技術」です。新卒から入社5年目くらいまでの期間であれば、まずまずの値段の技術を最低でも1つは取得できると期待できます。もちろん、厳しくて辛い時期を凌ぎながら技術を取得することは、大変なことだと思いますし、加えて、うんざりするほどの英語文献を読まされ、理解しなければなりません。全く迷惑な話としか言いようがありませんが、しかしですよ、強制的であれ、暴力的であれ、こんなに英語に接するチャンスを与えられる業界は珍しいです。

これをチャンスと考え、気の合わない同僚や上司との付き合いなど無視して、ひたすら技術の取得に努めましょう。「寄生」は戦略です。「技術」という名の小銭をせっせと稼ぎつつ、いつでもすぐに飛び出せるその日のための戦略です。

その他の戦略～「技術+α」のアプローチ～

可能であれば、「技術+α」のアプローチを採ることをお勧めします。「α」とは、例えば、法律や経済、数学、語学、政治などが該当します。こういう「技術」とは異なる分野の知識が「技術」と結びつくと、結構なパワーを発揮する場合があります。

基本的にエンジニアは、研究魂、強烈な個性、ストイック、クール、ドライ、一途、ひたむき、一生懸命、その道一筋という優れた美德がありますが、例外なく、その分野意外のことについては「無知」です。はっきり言えば「バカ」です。ですから、他の人が知らないことを知っているだけで、あたかもその「α」の分野の専門家のように誤認されるというメリットがあり、社内で一目置かれる可能性があるのです。

とは言え、新卒から入社5年目くらいまでの新人、若手の皆さんにとっては、このタスクは少々酷だと思います。今は忘れていただいて結構です。

最後のエール～思考のパラダイムシフト～

上記の戦略を全て試みても、なお、折れた心が修復できず、疲れ果てて「もうダメだ・・・」と床に崩れ落ち、立ち上がる気力も尽き果ててしまった、新人、若手の皆さんに、私から最後のエールを贈らせて頂きます。

かなり見落されがちなのですが、エンジニアは、かなり「幸せ」な人種なのです。

エンジニアは、課題があれば解決しようとし、



写真はイメージです

解決すればその中からまた別の課題を見つけ

出し、それを解決せずにはられません。エンジニアは、「暇」という概念がなく、常に忙しく、そして、いつも無駄に疲れています。本来、恋人や友人がいないことを寂しいと感じる時間帯（ひとりぼっちの夜など）で、コーディングやシミュレーション、ハンダ付け、回路設計をしているので、「恋人や友人がいないことは寂しいことだ」と知識として分かってはいても、それを実感する時間がありません。

いわば、通貨の概念のない未開の地において、コインや紙幣を見せられた原住民程度にしか、結婚や恋愛や友情を理解できません。これは客観的には不幸なことのようにも見えますが、当人がそれを不幸であると感じない以上、誰がなんと言おうとも不幸になることはできない——つまり「幸せ」であるということです。

エンジニアは常に、未解決な課題に向って、いつでも一生懸命です。それらの問題が解決した時のエクスタシーは、酒、たばこはもちろん、SEXや麻薬すらも及びません（一部経験がありませんが）。そのような快楽を現世で体験できるエンジニアは、かなり「幸せ」な人種に分類されると思うのです。

あなたが、「ぶか」と入力したら「不幸」と漢字変換されるくらいの立場であったとしても、「エンジニアでいられることは、それ自体が奇跡と呼べるほどの幸せである」と、パラダイムシフトができれば、

——あなたのエンジニアとしての人生は、すでに勝ったも同然です。

本連載は、毎月1回公開予定です。[アイティメディアID](#)の登録会員の皆さまは、下記のリンクから、公開時にメールでお知らせする「連載アラート」に登録できます。



Profile

江端智一（えばたともち） [@Tomoichi Ebata](#)

日本の大手総合電機メーカーの主任研究員。1991年に入社。「サンマとサバ」を2種類のセンサーだけで判別するという電子レンジの食品自動判別アルゴリズムの発明を皮切りに、エンジン制御からネットワーク監視、無線ネットワーク、屋内GPS、鉄道システムまで幅広い分野の研究開発に携わる。

意外な視点から繰り出される特許発明には定評が高く、特許権に関して強いこだわりを持つ。特に熾烈(しれつ)を極めた海外特許庁との戦いにおいて、審査官を交代させるまで戦い抜いて特許査定を奪取した話は、今なお伝説として「本人」が語り継いでいる。共同研究のために赴任した米国での2年間の生活では、会話の1割の単語だけを拾って残りの9割を推測し、相手の言っている内容を理解しないで会話を強行するという希少な能力を獲得し、凱旋帰国。

私生活においては、辛辣(しんらつ)な切り口で語られるエッセイをWebサイト「[江端さんのホームページ](#)」で発表し続け、カルト的なファンから圧倒的な支持を得ている。また週末には、LANを敷設するために自宅の庭に穴を掘り、侵入検知センサーを設置し、24時間体制のホームセキュリティシステムを構築することを趣味としている。このシステムは現在も拡張を続けており、その完成形態は「本人」も知らない。

本連載の内容は、個人の意見および見解であり、所属する組織を代表したものではありません。

関連リンク

[筆者の個人Webサイト「江端さんのホームページ」](#)

Copyright © 2016 ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

